特別支援教育について

1 特別支援教育

特別支援教育は、児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握して、生活や学習上の困難を改善し、もっている力を高められるよう、適切な指導や必要な支援を行う教育です。一人一人の特性に応じて行う特別支援教育は、特別支援学校や特別支援学級だけでなく、通常学級に在籍する子どもも含めて、全ての子どもたちにとって必要な教育です。山形市では、学校教育の大切な柱の一つとして、特別支援の教育の充実と推進を図っています。

2 発達障がいの理解のために

発達障がいは、脳の働き方の違いにより、物事のとらえかたや行動のパターンに違いがあり、そのために日常生活に支障のある状態です。発達障がいには、知的障がい、自閉スペクトラム症(ASD)、注意欠如・多動症(ADHD)、学習障がい(LD)、発達性協調運動障がい(DCD)、チック症、吃音などが含まれます。同じ障がいでも特性の現れ方が違い、他の障がい等を併せ持つこともあります。発達障がいの可能性のある児童生徒は、通常の学級を含め、全ての学校・学級に在籍していると考えられています。

～ 代表的な発達障がいの特性 ～

① 自閉スペクトラム症(ASD、広汎性発達障がい)

社会性の難しさ、コミュニケーションの難しさ、興味・関心の狭さ・偏り(イマジネーションの難しさ)

【感覚の偏り、不器用さ(発達性協調運動障がい)、睡眠の異常、過集中、記憶力・自閉症を併せ持つことがある】

② 注意欠如・多動症(ADHD)

不注意(忘れっぽく集中できない)、多動性(じっとしていられない)、衝動性(考える前に行動してしまう)

③ 学習障がい(LD)

「聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する」等の能力が、全体的な知的発達に比べて極端に苦手

④ 発達性協調運動障がい(DCD)

先にあげた3つの「発達障がい」に合併しやすい障がいで、年齢や知的発達に比べて協調運動が著しく苦手な状態

発達障がいは障がいの困難さも目立ちますが、優れた能力が発揮されている場合もあり、周りから見てアンバランスな様子が理解されにくい障がいです。発達障がいは生まれつきのもので、育て方など後天的なものではありません。ただ、周囲の環境、関わり方により「二次障がい」につながる可能性が高いため、家族をはじめ周囲の正しい理解と関わりが大切です。

3 山形二中の取り組み

- (1) 特別支援および教育相談についての校内組織があり、週に1度話し合いをしながら対応しています。教員が校内研修を行ったり、専門家の援助を受けたりしながら、学校全体で取り組んでいます。
- (2) 通常学級の生徒が特別な教育的支援を必要とする場合は、本人と保護者の方の困り感に寄り添い、その生徒の実態や特性、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導及び支援を行っています。
- (3) 現在、特別支援学級は自閉症・情緒障がい学級と知的障がい学級の2種類の学級があります。将来自立し、社会参加するための必要な力を培う教育に取り組んでいます。また、通常学級と交流し、学習や諸活動を行うインクルーシブ教育も推進しています。本人や保護者の方々と随時相談しながら個別の教育支援計画・指導計画を作成・活用し、進路目標に応じた教育課程・支援を進めています。
- (4) 県のスクールカウンセラー2名と市の教育相談員1名が、必要に応じて、生徒本人や保護者の方々へカウンセリングや支援を丁寧に行っています。

※ご入学前、また、ご入学後に何か気になること、困っていることなどがありましたら、担任、学年主任、養護教諭、部活動顧問、教育相談担当者、特別支援コーディネーター、カウンセラーなど誰にでも気軽にご相談ください。